

陸軍航空兵器審査研究ニ関スル資料 昭和十九年九月  
陸軍航空部

第一 一般ノ状況

一 陸軍航空兵器審査研究機関ノ名稱、擔任業務、  
附表第一ノ如シ

二 今次戦争前ニ於テ陸軍航空審査部ハ一切ノ航  
空兵器航空ニ関スル施設及航空衛生ニ関スル審査ヲ  
擔任シ第一乃至第八航空技術研究所ハ技術上基  
礎的研究ヲ必要トスル將來ノ兵器等ニ付キ研究ヲ擔  
任シマリタリ

三 戦局ノ進展ニ伴ヒ各航空技術研究所ノ將來兵器  
ニ関スル研究ハ極度ニ之ヲ壓縮シ審査部及各研  
究所ヲ一体トシ全力ヲ以テ實用兵器ノ審査業務  
ニ現用機ノ戦力向上ニ重點ヲ指向シ得ル如ク運  
營シマリタリ

四 昭和十九年末頃ヨリBニ九ニ依ル爆撃漸次激化シ  
各部隊ノ被害増大スルニ及ヒ立川地區ニ在ル各研究  
所ヲ逐次疎南セシムルニトニ努力セルモ輸送ノ資力有  
等各般ノ状況ハ其ノ内滑ル實施ヲ妨ケ或ハ疎  
開地ニ於テ更ニ被爆スル等業務ノ實施ハ極

航空

陸軍航空兵器審査研究ニ関スル資料 昭和二十一年九月  
陸軍航空部

第一 一般ノ状況

陸軍航空兵器審査研究機関ノ名稱、擔任業務、  
附表第一ノ如シ

今次戦争前ニ於テ陸軍航空審査部ハ一切ノ航  
空兵器航空ニ関スル施設及航空衛生ニ関スル審査ヲ  
擔任シ第一乃至第八航空技術研究所ハ技術上基  
礎的研究ヲ必要トスル將來ノ兵器等ニ付キ研究ヲ擔  
任シアリタリ

激局ノ進展ニ伴ヒ各航空技術研究所ノ將來兵器  
ニ對シ研究ハ極度ニ之ヲ壓縮シ審査部ハ各研  
究所カ一併トシ全ク以テ資源ノ吝嗇ノ密査業務ヲ  
擔任シ且ハ戦力向上ノ重要ヲ指向シ得ル如ク進  
歩シタリ

昭和二十一年十月頃ヨリBニ在リ依ル爆撃機ノ技術化  
ニ對シ隊ノ被害増大ノ如ク及ビ九州地區ニ在ル各飛行  
場ノ逐次疎開セルハトニ努力セルモ輸送ノ困難  
等々致シ次第ハ其ノ内管ニシテ必要施設ヲ備フ  
等々此ノ際ニ更ニ被爆スル等々對テ緊急施設

メテ困難ナル狀況ニ在リタリ  
各部隊ノ被爆狀況及疎開狀況附表第二  
及第三ノ如シ

五 陸軍航空兵器試作ハ殆ント全部ヲ軍需  
省ニ依託シ其考案設計試作並ニ之ニ伴  
フ研究ハ軍需省所管民間工場(武器彈  
藥兵器行政本部)ニ依存シ各部隊之カ審  
査ヲ擔任シアリテ陸軍航空工廠ノ外試作  
工場ヲ有セス

六 昭和二十一年度審査研究費配當額附表

第四ノ如シ

第二 審査研究業務ノ概要

一 陸軍航空兵器審査研究業務上特ニ重視シテ

リシ事項次ノ如シ  
艦船攻撃用兵器

各種飛行機ニ對スル大型爆彈ノ裝備、特攻機

ロケット彈ヲ重トス

乙 日本本土防空用兵器

爆撃機ノ航續距離延長、戦機ノ高度  
飛行對策ヲ重點トス

3. 不足資源對策

燃料不足對策トシテ「アルール」松根油、使用  
アルミニウム不足對策トシテ木製機其他ノ  
代用品ノ研究ヲ重視ス

二 主要ナル航空兵器ノ審査研究概況附表  
第五ノ如シ

0666

附表第一

陸軍航空兵器審査研究機關擔任業務要覽表

研究審査部(部長)	擔任業務
陸軍航空兵器審査部 (中將 緒方 辰義)	一 飛行機、綜合審査航空兵器、特種兵器、飛行場器材、落下傘、及一連関係器材、審査 二 航空兵器、器材及燃料、燃料、飛行三依り器材用審査 三 反動推進機関、同機関、器材、研究、實施 四 反動推進機関、同燃料、研究、實施 五 武器、同彈、其系統砲架、射雲、裝備品、部品、用品、研究、實施 六 新制飛行機、傳習教育 七 各陸軍航空研究所、研究、為、飛行三依り或兼
陸軍 氣象部 (少將 竹内 善次)	氣象器材研究及審査
第一陸軍航空技術研究所 (中將 緒方 辰義)	一 飛行機、口体、プロペラ、機体部品及同関係研究 二 航空三關、非金屬材料、三關、研究 三 飛行機、口体、同部品、プロペラ、及之等、同關係器材、審査、實施
第二陸軍航空技術研究所 (少將 信濃 成繁)	一 航空三關、スル、發動機、同部品、同關係品、及發動機裝備三關、スル、機体部品、研究 二 航空三關、スル、燃料、滑油、同關係研究、實施 三 發動機、同部品、同關係器材、審査、實施
第三陸軍航空技術研究所 (少將 正木 博)	一 標準、航空瓦斯防護器材、爆雲三關、段、スル、器材、光學器材、ヲ除ク、三關、スル、研究 二 爆雲兵器、爆彈種類、航空化學戰兵器及之等、同關係器材、審査、實施 三 航空三關、スル、通信兵器、其標準、航空器材、三關、スル、研究 四 航空通信器材、航法、無線電、同關係器材、電機器材及之等、同關係器材、審査、實施
第五陸軍航空技術研究所 (中將 坂戸 直孝)	一 眼鏡、ヲ主トシ、航空用照準器、航空用寫真器材、或光、材料、計測器、航法器材(無線航法器材ヲ除ク)、研究 二 航空用計測器、自動操縱器材、航空用、真器、航法、同關係器材、審査、實施 三 航空器材及之等、同關係器材、審査、實施
第六陸軍航空技術研究所 (少將 仁井 辰造)	一 航空三關、スル、金屬材料、研究 二 金屬材料、基本審査、實施
第七陸軍航空技術研究所 (主計少將 川島 四郎)	一 航空三關、糧食、同關係器材、航空三關、スル、特種被服、航空建築、土木、器具、三關、研究 二 航空被服、糧食、衣糧器具、及特殊施設、審査、實施
第八陸軍航空技術研究所 (軍醫 天佐 河野 清吾)	一 航空衛生、心理、及同關係器材(酸素吸入器、航空衛生三關、スル、兵器、三關、研究) 二 航空衛生器材、酸素吸入器、審査、實施
多摩陸軍航空技術研究所 (中將 多田 興一)	一 電源、同關係兵器及兵器器材、同關係研究、及之等、審査、實施

附表第二

陸軍航空審査部被爆状況

部隊 名 位置 被爆 状況

陸軍航空審査部 福生 損害 軽微

第一陸軍航空技術研究所 立川 風洞施設 小破 外大部焼失

第二陸軍航空技術研究所 立川 發動機運転施設 中破 一部除大部焼失 又 破壊

第三陸軍航空技術研究所 立川 殆ど全部焼失 又 大破

第四陸軍航空技術研究所 立川 立川三左衛門施設 全部大破 焼失 又 八王子三機庫 同所 全焼 又

第五陸軍航空技術研究所 立川 一部中破 又 大部 使用 不得

第六陸軍航空技術研究所 立川 中破

第七陸軍航空技術研究所 青梅 立川三左衛門施設 全焼 青梅 移転 又

第八陸軍航空技術研究所 立川 施設 大部 大破 又 焼失

第九陸軍航空技術研究所 立川 立川三左衛門施設 全焼 國立三移転 又

第十陸軍航空技術研究所 立川 立川三左衛門施設 一部 焼失 又

附表第三

陸軍航空兵器審査研究機關疎開狀況一覽表

部隊名	本部位置	出張所名	出張所業務概要	現況
審査部	福生	京都	支那の性格に有る総合機関トシ航空兵器材料等審査及傳習教育ヲ擔任ス	七月不概成
一航研	福生	水戸	航空推進関係兵器及特殊燃料研究審査	七月下旬爆薬ニヨリ全焼セリ
		松本	機体部品「ロ」非金属材料研究審査	運転場工事
二航研	立川	高山	發動機設計發動機綜合及單筒試験装置用部品試験等研究審査	二〇%
		岡谷	過給機冷却應用物理燃料滑油又燃焼研究	實驗室工事実施中
三航研	福生	阿部清	航空強襲研究審査	
四航研	八王子	屋代	計測器関係研究光學関係研究	機械工場未完
五航研	立川	甲府	航空糧食関係研究審査	全焼
六航研	立川	秩父	航空被服関係研究審査	
八航研	立川	新潟	航空生機學関係研究審査	移転中
		青梅	機上電波兵器関係研究審査	
多摩研	国立	久我山	地上電波兵器関係研究審査	
		藤岡	機上電波兵器之基礎的事項研究	
備考	本表外所要應其都友親空兵器試作會社等	上諏訪	真空管及材料研究	
		関西	特殊電波兵器研究	

附表第四

昭和三年度審査研究予算配当額

部 隊 名	配 当 額
航空審査部	約九〇万円
第一航空技術研究所	約四四〇万円
第二航空技術研究所	約三三〇万円
第三航空技術研究所	約一六〇万円
第四航空技術研究所	約一六〇万円
第五航空技術研究所	約一四〇万円
第六航空技術研究所	約一一〇万円
第七航空技術研究所	約一八〇万円
第八航空技術研究所	約三〇〇万円
航空系	約一三〇万円
多摩技術研究所	約八〇〇万円
出陣考	本表、外兵器試作費トシテ約 二五〇〇万円、軍需省ニ移管シ

0670



附表第五

主要飛行機審査研究概況

昭和三年九月  
陸軍航空本部

機種	戦斗機	爆撃機	攻撃機	偵察機	輸送機
<p>審査研究進捗の程度</p> <p>戦斗機トシテハ近距離戦斗機ノ信頼性向上 高々度防空戦斗機及夜間戦斗機ノ審査ニ重点 ヲ置キ實施シマシテアリタリ乃チ「キハ四」ノ各種信 頼性確保「キ〇」ニ型「キ〇」ニ甲兩ノ審査ヲ完成シ 略々實用用途ヲ得ワシタリ但シ「キ〇」ニ丙ハ未 ク試作ヲ完成スルニ至リザリキ</p>	<p>爆撃機トシテハ近距離戦爆撃機ノ航続距離 ノ延長並ニ遠距離爆撃機ヲ審査中ニシテ 航続距離延長トシテ「ハ」ニ型「キ」ノ油槽増設ニシテ 試作ヲ完了シ審査中又「キ」ニ型「キ」ノ審査ヲ促 進シ略々實用ノ用途ヲ得ワシタリキ</p>	<p>攻撃機トシテハ「キ〇」ニ型ノ敵着陸ノ改良ヲ重要トシ 略々實用用途ヲ得ワシタリ更ニ艦船及母艦攻 撃ノ目的トナル「キ」ニ型「キ」ノ設計試作ヲ完了シ 飛行審査中「キ」ニ型ノ敵着陸ノ重量等ニ對 シテ「キ」ニ型ヲ未ダ實用ノ用途ヲ得ルニ至ラザリ</p>	<p>偵察機トシテハ「キ〇」ニ型ノ高々度性 及向上ニ重点ヲ置キ「キ」ニ型「キ」ニ型「キ」ニ 型ノ審査ヲ實施シ略々完了シ「キ」ニ型</p>	<p>輸送機トシテハ大貨物輸送トシテ「キ〇」ニ型 ハ略々審査ヲ終了シ實用審査ニ入リ 「キ」ニ型「キ」ニ型又十型輸送機トシテ「キ」ニ型 ノ改良トナル「キ」ニ型ノ設計試作ニ重点ヲ置 キ審査中「キ」ニ型ノ設計試作ヲ完了スルニ至ラザリ 空爆ニシテ「キ」ニ型ノ改良セリ</p>	

特殊機

特殊機トシテハ「栗波」ト「ニール」防空戦闘機  
「キニロ」及「タービン」ト「使用」スル「キニロ」ヲ  
審査中ナリ「モ」キ「ニロ」ハ「未ダ」飛行スル「至」ニ「至」  
ハ設計中ナリキ

不足資源  
対策

揮発油不足対策トシテ「アルコール」使用ハ現  
用各機種ニ対シ其大部ヲ終了シ「既」ニ「一部」  
「復用」シ「アル」特殊飛行機ヲ「除」ク「殆」ド  
「アル」アル「フル」使用可能「結果」ヲ「得」  
「アル」不足資源対策トシテ「現用各機種」  
「尾翼」座席「踏板」等「木製」化「外」全「木」  
製飛行機「審査」研究ヲ「實施」シ「アル」  
「乃」テ「單座」戦闘機「キ」ハ「六」輸送機「キ」ハ「五」  
「キ」ニ「アル」練習機「キ」ハ「六」等「アル」又「アル」  
「アル」不足対策トシテ「鋼製」飛行機「キ」ニ「至」  
「設計」試作中ナリ「モ」資材及工數増大「アル」  
「難」下リ「未ダ」機「キ」完「成」ス「至」ニ「至」ナリキ

0672

航空原動機

空冷原動機ハ二五〇馬力級ヲ完成シ實用機用トシテ  
生産ニ着手スルト共ニ二五〇馬力級ハ試作ヲ實施シ  
試験中ナリ

水冷原動機ハ一三〇馬力級ヲ試作試験ニ終  
了セリ口マシト原動機數種ヲ試作試験中  
排氣ガマシトシテ其ノ他補機類ハ概ネ右ニ準行  
シ使用高度九〇〇〇米モ一試験ヲ完成セリ

六〇径機筒砲(三銃五七銃)ノ完成ニ努  
力シテ試作ヲ機成セシ程度又ニ一方向制式  
機筒砲全彈藥(三銃)ノ故障対策ニ努メタリ

武器彈藥

爆彈ハ射撃船攻撃威力ノ向上ヲ主目的トシテ研  
究シ彈体補強及信管ノ改良ニ努ムルト共ニ  
「ロケット」彈ニ上陸用小型舟艇攻撃用及着水  
彈ニヨル大型爆撃機編隊攻撃用ヲ企圖シニリ  
ルモ實用スルニ至ラズ

大型機用無線機同高度計策戰術機用無  
線機信頼及向上対策爆用U型地上探等ニ  
重點ヲ置キ機成セシモノハ直ニ第一線ニ使用セシムル  
ト共ニ生産増強対策信頼及向上ニ努メタリ

航空通信器

計測器ハ一般ニ信頼性向上並ニ不足資源対策ニ  
重點ヲ置キ特ニ高度計測器及自動探偵機ニ對シ  
テハ高度計策並ニ生産能力向上ヲ重要トシテ  
研究ノ成果ハ直ニ實用化セリ

計測器光學  
器

光學兵器ノ寫真機感光板等ヲ於テハ現用ノ  
故障対策信頼性向上ヲ研究ニ留メ探偵具ハ  
一般ニ自動化ノ企圖セシモノ實用化セシムル迄ニ至ラ  
ズ電波探偵機警戒機電波高度計電波誘導  
導機ニ向上ニ努ム機成セシモノハ直ニ第一線ニ使用

電波兵器

このムルト共、生産増強対策、性能向上に努む。

双曲線航法装置、極超短波、基礎研究に着手

年、この装置完成、スルニ至ラズ

0674

陸軍技術研究所之部

陸軍兵器行政本部  
昭和二十年八月二十日

0675

陸軍技術研究所ハ陸軍所要ノ兵器及兵器材料（  
陸軍航空技術研究所及多摩陸軍技術研究所所掌  
ノモノヲ除ク以下同ジ）ノ調査研究考案設計及  
試験並ニ陸軍技術（航空關係及多摩陸軍技術研  
究所所掌ノモノヲ除ク）及科學ノ調査研究及試  
驗ヲ行フ

陸軍技術研究所ハ前項ノ外固定無線所（航空  
關ルモノヲ除ク）ノ施設補修等ヲ行フ

陸軍技術研究所ハ現在第一乃至第十ノ十箇ヲ置  
キ其ノ分掌所在地現況等次ノ如シ

其一 第一陸軍技術研究所

一 任務

白兵銃器火砲彈藥及輓馱馬具等ノ調査研究考案設計試験並ニ射表編纂

二 所在地

東京都北多摩郡小金井町

三 編成

總務科及第一二四五科(第三科缺)ヨリ成ル

別ニ伊良湖浜松富津ニ各試験場ヲ有ス

總務科 企画並ニ庶務人事經理

第一科 白兵銃器機關砲實包

第二科 各種火砲

第四科 彈藥火藥火具

第五科 射表ノ編纂及砲内外彈道

所長以下八六三名ナリ

内 訳

高等官 七一名 判任官以下七九二名

細部附表ノ如シ

五 研究現況

研究項目	要 項	進 捗 状 況
四号機高射 機関砲	ホホトス式ノモノヲ要他用 トシテ固定化セルモノニ就 キ研究ス	研究概ネ終了
七糧半 対戦車砲	自走式ニシテ七糧半高射 砲ト同一身管ヲ用フルモノ ニ就キ研究ス	研究概ネ終了
十糧対戦車砲	自走式ニシテ十糧戦車砲ト 同一砲身ヲ用フルモノニ就 キ研究ス	車台ヲ除キ研究概ネ終了
十糧戦車砲	初速約九〇〇米ノモノニ就 キ研究ス	設計完了製作中
十五糧自走砲	九六式十五糧ヲ十八車ニ搭載 シ自走式トセルモノニ就キ研 究ス	設計中

短十糧自走砲	海軍砲タル短十糧砲ヲ千 八車ニ搭載シ自走式トセル モノニ就キ研究ス 九九式ハ高ヲ利用シテ初速 約一〇〇〇米秒ノ七糧半 身管ヲ裝備セシモノ 制空高度ノ増大並ニ経過時 間ノ短縮ヲ圖リタルモノ	設計完了試作中
七糧半重高射砲	對戰車砲トシテ利用シ得ル 口径十糧半ノ無反動砲ニ 就キ研究ス	試作完了試作中
十糧無反動砲	對戰車砲トシテ利用シ得ル 口径十糧半ノ無反動砲ニ 就キ研究ス	試作完了試作中

所掌主要兵器諸表附表第ニノ如シ

六 豫 算

本年度配當豫算約三二〇万圓

七 施 設

大久保地區ヨリ移轉後自尚淺ク小金井地區ニ

ハ特殊ノ施設ヲ有セズ

但シ伊良湖富津ニハ研究試驗射撃ニ必要ナル

各種施設ヲ有ス



附表第 一

陸軍技術研究所人員表

區分	高等官	判任官	雇員及員	計
武官	五八	二三		八一
文官	一三	六二	七〇七	七八二
計	七一	八五	七〇七 (三〇六)	八一 (三〇六)

備考

(一)内ノ数ハ女子ノ内数ヲ示ス

0679

其二 第二陸軍技術研究所

一、任務

觀測、情報、測量、及指揮連絡用ノ兵器、  
氣球、空觀機、銃砲用照準眼鏡及計器、算  
定具、水測兵器ノ調査、研究、考案、設計

、試験

三、所在地

東京都北多摩郡小平町

三、編成

總務科及第二、三科（第一科欠）ヨリ成ル

、第三科ハ豊橋市ニ位置ス

總務科 企画、庶務、人事、經理、製圖作  
業

第二科 對空射撃指揮具、水測兵器ノ研究

第三科 氣球、空觀機ノ研究

四、人員

所長以下三百六十二名ナリ

内譯

高算官 五六名

判任官以下 三〇六名

細部附表ノ如シ

五、研究現況

研究項目	要項	進歩狀況
水測兵器	海軍ノ研究ニ対シ 協力	
高射算定具	半自動式高射算定 具ニシテ最新ノ航 空機ニ対スルモノ ニ付研究ス	試作完成シ 部内ニ於 テ試験中
高射照準具	構造簡易ナル照準 具ニシテ研究ス	試作完了直後 戦災ニヨリ亡失

所掌主要兵器、諸元附表等ニ、如シ

六 豫算

本年度配當豫算約一六五萬圓ナリ

七 施設

大久保地區ヨリ移轉後日尚ホ淺ク小金井地

區ニハ特殊ノ施設ヲ有セズ

但豊橋市ニ空觀機研究ノタメ、飛行場ヲ有

ス

附表

第二陸軍技術研究所人員表

		武官	高等官
		文官	判任官
			雇員
			工員
			計
計	三	四	二七
	三	五	一三
	(三〇) 八二	(三〇) 八二	
	(八三) 二二	(八三) 二二	
	(一〇三) 三六二	(一〇三) 三三二	四〇

〔女子ヲ含ミ〕内ニ女子ノ数ヲ示ス

附記

陸軍兵器行政本部余丁所分室

一、任務

熱線射線ヲ利用スル左記兵器ノ調査研究

考案設計試験

左記

艦船搜索機及夜間索敵具

自動突撃艇

自動滑空機

二、所在地

長野縣諏訪郡富士見村

三、編成

研究上ハ第二陸軍技術研究所ノ一科ノ地位

ニアリ、又其ノ他ノ事務上ハ陸軍兵器行政

本部ノ一課ニ相當スル地位ニアリ

統務科綜合科第一、二、三科運用科統務

科別班東京出張所ヨリ成ル

運用科ハ静岡縣浜名郡 東京出張所ハ東京

都牛込区ニ位置ス

統務科 企画、庶務、人事、経理、資材

綜合科 自動滑空機I型ノ研究

第一科 自動滑空機II、III型ノ研究

第二科 自動滑空機頭部装置及電源ノ研究

第三科 艦船搜索機及夜間索敵具ノ研究

熱線ニ関スル基礎的研究及感度測

定

運用科 運用、整備、教育

統務科別班 熱線ニ関スル基礎的理論的研究

東京出張所 東京ニ於ケル連絡

四、人員

分室長以下四七六名ナリ

内 譯

高等官

二三五名

判任官等

二四一名

細部附表ノ如シ

五、研究現況

研究項目	要 項	進捗状況
艦船搜索機 及 夜間索敵具	航空機ニ裝備シ 水上艦船ヲ搜索 スルモノニ付研究	有効距離約十料 ノモノヲ試作シ概 ネ兵器化ノ目途ヲ 得
自動突撃艇	水上艦船ニ自動 吸着スルモノニ付 研究ス	目標ヲ其ノ背景ヨ リ分離捕獲シ得 ス遂ニ研究ヲ中 絶ス
自動滑空機	艦船攻撃用自動 標縦爆彈ニ付研 究ス	数次ノ設計ヲ經 テ試験ヲ行ヒシモ目 標ニ対シテ收斂セシム ルニ至ラズ大伴自途 ハ得タルモ遂ニ兵器 化ヲ實現シ得ルニ至ラズ

0686



所掌事務、諸元附表、如左

六 豫算

本年度配當豫算 約三〇〇万円

七 施設

主トシテ民間ニ研究ヲ委託セルモノニシテ

大規模ノ施設ヲ有セズ、而モ有セシ施設ノ

大半ハ五月二十五日ノ東京爆撃ニヨリ焼失

シ、爾後復旧スルニ至ラス

又、浜松ノ試験場(運用科)モ、浜松ノ爆撃ニヨ

リ焼失シ、未ダ復舊スルニ至ラス、極メテ應急

的ナ方法ニヨリ試験ヲ續行セル実情ナリ

陸軍兵器行政本部余丁町分室人員表

計	文官	武官	
二三五	五	二三〇	高等官
二七	五	二三	判任官
(三七) 五三	(三七) 五三		雇員
(三三) 六一	(三三) 六一		傭人
(五九) 四七六	(五九) 二二四	二五二	計

0688

其三 第三陸軍技術研究所

一、任務

器材、爆破用火薬火具ノ調査、研究、考案、設

計、試験

二、所在地

東京都比多摩郡小金井町

三、編成

總務科及第一乃至第三科ヨリ成ル 別ニ設

崎試験場ヲ有ス

總務科 企画、庶務、人事、經理

第一科 電力、照明器材

第二科 近接戰鬥器材、爆破用火薬火具

作井給水器材

第三科 渡河、鉄道器材

波崎試験場 主トシテ渡河、爆破試験

四、人員

0689

所長以下四九〇名ナリ  
内 譯 四〇名  
高等官 四〇名  
判任官以下 四九〇名  
其ノ細部附表ノ如シ  
五 研究現況  
主要研究項目九ノ如シ

0690

項目	要項	現況
大型探照燈	中経二米以上ニシテ照射力大ナルモノニ就キ研究ス	中経三米ノモノニ就キ試作中
探照燈聯動装置	電波標定機ト探照燈トヲ聯動セシムルモノニ就キ研究ス	研究ヲ終了ス
海岸防護戦士器材	海岸防禦用トレノ簡易ナル水雷ニ就キ研究ス	試作品ニ就キ研究中
内迫攻撃器材	針戦車攻撃用トシテ各種爆雷地雷等ニ就キ研究ス	手投爆雷、戦車地雷ハ研究ヲ終了シ地雷ニ就キ研究中
超重門橋	四〇屯級車輛ヲ塔載渡河セシムヘキモノニ就キ研究ス	研究ヲ終リ整備用仕様書準備中
鉄道特列車	鉄道特列車ノ代燃化ニ就キ研究ス	代燃装置ノ装着実施中
鉄道渡航器材	四〇屯級鉄道貨車ヲ塔載渡河セシムヘキモノニ就キ研究ス	舟体ハ試作終了セルモ橋床材料試作中戦災ニ依リ焼失ス

0691

六 豫算

本年度配當豫算約二四五万円

七 施設

國分寺地区ニ事務室及若干ノ研究試験室ヲ

有入ルモ未ダ本格的ニ業務ヲ実施シ得ル程

度ニ完備スルニ至ラス

波崎試験場ハ八月二十日戦災ノ爲全焼セリ

0692

附表

第三陸軍技術研究所人員表

區分	武官	文官	計
高等官	四〇	三	四三
判任官	二〇	三一	五一
雇員及工員	/	四〇 四〇 〇〇	四〇 五〇 〇〇
計	六〇	四三 五三 〇四	四三 五九 〇四

備考( )内ハ女子数トス

第四陸軍技術研究所

任務

戰車、装甲車、牽引車及自動車等車輛類

註：自動車用燃料及脂油の調査研究考案

設計試験

所在地

神奈川県高座郡相模原町

編成

總務科及第一乃至第五科ヨリ成ル

總務科 企画、庶務、人事、經理

第一科 車輛、軍機、數機

第二科 戰車、装甲車

第三科 牽引車

第四科 自動車

第五科 自動車用燃料及脂油

人員

所長以下 五五八名ナリ

内譯

高等官 七六名

判任官以下 四八三名

細部附表ナリ



五. 研究現況

研究現況左表、如左

研究項目	要項	進捗状況
新中戦車(甲)	重量 約二六噸 武装 七五口径戦車砲(長) 一門 七七口径重機 二門 發動機出力 四〇馬力以上 装甲 主要部 五〇 最大速度 四〇km/h以上	一輛試作ヲ終リ截止 備ニ著手セルモ生産 ニ到ラス
新中戦車(乙)	重量 三五噸以下 武装 七五口径戦車砲(長) 一門 三口径戦車砲 一門 七七口径重機 二門 發動機出力 五五馬力以上 装甲 主要部 七五 最大速度 四〇km/h以上	一輛試作ヲ終リ 整備中止
十種自走砲台	重量 約一七噸 武装 十榴 一門 其他八九七式中戦車三台 重量 三七噸以下 武装 十加 一門 發動機出力 五五馬力以上 装甲 七五 最大速度 三五km/h以上	試作ニ著手セルモ 完成ニ到ラス 設計途中ニ於テ 研究ヲ中止ス
新自走砲台	自重 約一〇噸 最大速度 約四五km/h 牽引量 六〇一〇噸 機械化兵團用十加十五榴口径 牽引並一般兵團用十五加級火砲 牽引可能ナルモニ就テ研究ス	試作略完了 試験ハ未實施
中型牽引車		

0695

研究項目	内容	進捗状況
七種半對戰車砲 車 台	全備重量約一三五噸 裝甲(最厚)一二センチ 最大速度 約四〇ノ時 彈藥携行枚数 約一〇〇發 中型裝軌復原車々台ヲ利用スル モノトス	試作完了 試驗完了
十種對戰車砲 車 台	全備重量 約二五噸 裝甲(最厚) 二五センチ 最大速度 約四〇ノ時 彈藥携行枚数 約六〇發 概テ普通對戰車(自)ト共通ナル 部品ヲ用フルモノトス	試作中 發動機完成 車輛材料準備中
蒸汽牽引車	全備重量 約一四噸 蒸汽圧力 三〇噸 最大出力 一三〇馬力 九二式八屯牽引車ノ動力ヲ 蒸汽化スルコトヲ研究ス	計画中
小型四輪駆動 自動貨車	自重 一、二〇〇斤 積載量 五〇〇斤 軸距 二、三米 發動機 トヨタ四汽筒四馬 カガリン機関 副变速機附	設計完了 整備準備中
水陸兩用 自動七頁車	自重 三、三〇〇斤 積載量 二、〇〇〇斤 トヨタ自動貨車ヲ四輪駆動 ニ改造シ水陸兩用トス 改造型ハ重量簡易型 トシ構造機件数比ヲ要 及ビクモ能力ヲ向上ス	設計完了 一部整備ス 改造型ハ整備準備中

0696

研究項目	要	進捗状況
民間自動車	民間大衆車相互及軍用車ト、共通性ヲ増加スル為、規格研究並ニ製造ヲ容易ナラシムル為、簡易型式ノ研究	繼續研究 簡易型ニシテハ概不終了
代用燃料自動車	一 木炭自動車用ガス發生装置ニ就キ製造容易性能良好ナルモノニ就キ研究 二 ジーセル自動車、木炭ガス駆動化ニ就キ研究	一 設計完了 整備ニ移行中 二 研究概不完了

採算

本年度配當豫算約二五〇萬圓ナリ

施設

一 昨昔八年大久保地區ヨリ移轉相模造兵廠ノ既諸施設ヲ利用シテ、研究ヲ續行シ建設ノ途上ニアリテ廠舎ノ外ハ、動力馬力試験室等設備中ナリ

附表

第四陸軍技術研究所人員表

計	文官	武官	區分
三七	四	三三	高等官
八三	五七	二六	判任官
四 七三 三一	四 七三 三一		雇員及工員
五 七五 三一	四 七九 三一	五九	計

別二事務屬託七

0698

其五 第五陸軍技術研究所

一 任務

通信兵器ノ調査研究考案設計試験

●~~固定無線所ノ施設補修~~

二 所在地

東京都北多摩郡小平町

三 編成

總務科及第一乃至第四科ヨリ成ル別ニ泊平方

試験場ヲ有ス

總務科 庶務人事企画経理

第一科 有線通信器材防空通信器材

第二科 無線通信器材●~~固定無線所ノ施設補修~~

第三科 特殊通信器材

第四科 通信機用部品及材料ニ関スル研究

泊平方試験場 主トシテ無線試験

生立産方志ニ関ス  
ル事項

作業行程簡易化及生立歩留向上ニ付テハ  
之亦常ニ研究ヲ行ヒタリ即チ素戔節約ニ爲  
「特殊薄肉鑄造法」及「型鍛造法」ニ関シ鉄  
及輕合金ニ對シ研究ヲ實質施ス又高周波電流ニ  
依ル表面硬化法ハ一九四二年研究ヲ開始シ一九四  
四年完成一九四五年現在、實質施移行中ナリ

0700

四人員

所長以下四六五名ナリ

内譯

高等官 約四五名

判任官以下 四三〇名

(内女子一七〇名)

細部附表ノ如シ

五. 研究現況

研究現況ノ概要左表ノ如シ

項目	研究要領	現況	摘要
搬送電信電話ニ関スル研究	多重電信電話ノ軍用化ニ就キ研究ス	試作注文中	戦災ノ為談作品焼失
移動式無線機ノ周波数安定ニ関スル研究	車輛無線機周波数安定ニ関スル研究成果ヲ應用シ水晶振動子ヲ用ヒズ又重要諸元ヲ変更スルコトナク周波数安定度良好ナルモノニ就キ研究ス	試作注文中	

<p>固定無線機 空輸ニ関スル研究</p>	<p>無線機ヲ分解空輸 現地ニ於テ容易ニ結合 組立スベキ要領ニ就キ研 究ス</p>	<p>終了</p>	
<p>無線裝備ノ研究</p>	<p>各種車輛船舶等ニ無線 機ヲ裝備スルコトニ就キ研 究ス</p>		<p>裝備スベキ車 輛船舶等 ニ就キ研究 ニ就キ実施</p>
<p>防空通信器材</p>	<p>防空諸部隊ノ指揮並ニ 情報傳達ヲ迅速ナラシムル モ、ニ就キ研究ス</p>	<p>實用試験実施中</p>	
<p>綜合航空情報 標示機</p>	<p>電波兵器ニヨル敵機ノ情 報友軍飛行隊ノ行動等 ヲ傳達標示シ得ルモノニ就 キ研究ス</p>	<p>調査研究中</p>	
<p>超短波多重通 信機</p>	<p>一超(極超)短波ヲ利用 スル車輛裝備式ノモノニ就 キ研究ス</p>	<p>一改修ニ関シ研 究中</p>	
<p>固定式單側帶波 通信裝置</p>	<p>既設固定無線通信器材 ニ附加シ現地ニ於テ單側帶 波通信機ニ改修可能ナルモノ ニ就キ研究ス</p>	<p>研究中</p>	
<p>簡易通信器材 及通信法ニ関スル 研究</p>	<p>現地自治遊撃隊又ハ國民 總武裝用トシテ取扱並ニ製造 容易ナル簡易通信器材 及既設通信線其ノ他ヲ利 用スル通信法ニ就キ研究 ス</p>	<p>調査研究中</p>	



六 豫 算

本年度配當豫算 二六〇万円

七 施 設

國分寺地区ニ事務室及若干ノ研究試験室ヲ有  
スルモ未ダ完全ニ整備セラレテラズ

0703

附表

第五陸軍技術研究所人員表

計	文官	武官	區分
四五	三	四二	高等官
五二	三一	二一	判任官
(女子)三七〇	(女子)三七〇		雇員及工員
(女子)四六七	四〇四	六三	計

0704

其六 第六陸軍技術研究所

任務

化學兵器ノ調査及研究、化學戰ニ與ルル醫學的、獸醫學的

調査及研究

所在地

東京都美橋區百人町

備成

院務科及第一乃至第三科ヨリ成リ別ニ高岡榮泰所ヲ有ス

院務科 企画人事経理庶務

第一科 瓦斯検知及毒物ノ合成研究

第二科 防護ノ研究

第三科 治療衛生ノ研究

高岡榮泰所 化学兵器ノ研究

人員

所長以下七十五名

内譯

高等官七三名判任官以下六四名 細部附表ノ如シ

五 研究現況

其概要ヲ表スル也

研究項目	研究要項	進捗状況	摘要
毒物ノ研究	主トシテ新毒物ヲ探 究ス	既知毒物ヲ調査 スル優秀ナルモノハ 尠見スルニ至ラズ	
瓦斯検知及防 護ノ研究	防護ノ良法ヲ期ス ルタメ矢ダ新検知 体系ノ確立ヲ企圖ス	研究畧完成	
予防治療等 衛生的研究	「イハリト」並ニ毒酸 ヲ主トシテ研究 ス	アミノ酸ニ關スル エスラル、ハイネ等 ノ外類者ナル効能 ヲ有スルモノヲ尠見シ 得ズ	

六 豫算

本年度既当予算額約ニ九〇万

七 施設

化學一般ノ基礎研究ニ付年々ナル設備施設ヲ若干有セシモ昭和三年  
四月十三日、五月二十六日 兩度ノ空襲ニ依リ並ニ此ノ疎布ノタメノ輸送

中空藜依リ其大部ヲ覆スアリ

0707

所表

第一陸軍技術研究所職員人員表

職別	高等官	判任官	普通以下	計
武官	六四	一九		八三
文官	九	四〇	五八三 (一一三)	六三三 (一一三)
計	七三	五九	五八三 (一一三)	七一五 (一一三)

備考

(一) 四ノ数字ハ女子ノ四数字ヲ示ス

其七 第七陸軍技術研究所

一 任務

兵器物理的基礎技術ノ調査及研究、物理的兵器ノ考案、爲ノ基礎研究、兵器ニ關聯スル科學的諸作用ノ生理學的調査及研究

二 所在地

東京都茨橋區百人町

三 編成

總務科及第一乃至第五科ヨリ成ル

別ニ伊東 觀音崎及國分寺ニ試驗場ヲ又金澤

ニ射場ヲ有ス

總務科 企画 庶務 経理

第一科 兵器ノ基礎研究

第二科 光學及光電學の基礎研究

第三科 音響學の基礎研究

第四科

電氣學及機械學の基礎研究

第五科

人体生理學の基礎研究

四 人員

所長以下 五九五名ナリ

内譯

高等官

九五名

判任官以下

五〇〇名

細部附表、如シ

五 研究現況

研究現況、概要表、如シ



研究項目	研究要項	進捗状況	摘要
噴進利用各種兵器基礎	火藥噴進理論の應用兵器基礎事項の研究	概不終了	資料ハ戰火ノ為ニ焼失
液燃利用兵器基礎	火藥原料節約ノ為ニ液燃燃料ノ利用ニ関シ基礎的研究	室内研究ヲ開始シ程度	全右
無反動砲基礎	各種無反動砲ノ基礎的研究ニ就キ研究	基礎實驗概不終了	全右
穿孔藥包理論	穿孔藥包ノ作用ニ関シ基礎的研究ニ就キ研究	實驗値ノ一部ヲ求メタルニ確實ナル理論ヲ究明スニ至ラズ	全右
電視軍用化研究	今上	重要トシテ推進サレシ爲メ大ニ成果ヲ得ス	全右
暗視軍用化研究	赤外線利用ニ關シ基礎的研究ニ就キ研究	實用ノ感ニ到達セズ	全右
轉輪利用基礎研究	轉輪利用兵器基礎研究ニ関シ研究	各種型式ノ性能調査中	全右

0711

水中音響 兵器基礎	先埔音響性能向 上之研究又	研究中
海象調査	海象調査各種現象 ト音響傳播ノ関係ニ就 キ基礎的研究又	合 否
磁氣利用兵 器基礎	一磁氣核雷ニ就キ基礎的 研究又 二磁氣分布調査	一磁氣核雷掃海 具概成 二海中於此種掃 磁氣分布測定中
潜水船ノ関 心基礎	潜水被突船ニ就キ 基礎的研究又	研究中
無線探続 基礎	先舟艇用ノモノニ 就キ研究又	實用ノ域 ニ達セ又
代用燃料 機関基礎	合 上	未夕實用 化ニ至ラヌ
人体各種 能力限界ノ 関心基礎	一夜间視力増強ニ 関心基礎 二虹波ノ諸化膿性疾患 ニ虹波一ノ及 及使傷練傷ニ対スル 効力	一概 成 此等光ノ完感